

水平考

ぼくは、空飛ぶ、夢をみる。
ホシが、泪が、流れれない。



2021年6月7日[月]—6月30日[水]

10:00-17:00 | 日曜休館

多摩美術大学 彫刻棟ギャラリー

6月15日[火] 17時

利部志穂パフォーマンス+トークイベント

登壇 利部志穂、高嶺格 (多摩美術大学彫刻学科科長)

新型コロナウイルスの蔓延状況によっては予定を変更する可能性がございます。最新の情報はウェブサイトをご覧ください。
<http://www2.tamab.ac.jp/ggi-bin/choukoku/news/>

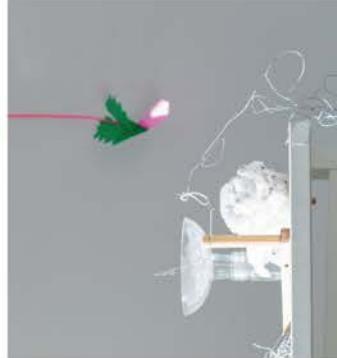
多摩美術大学彫刻学科では一年に一度、彫刻領域の可能性を追求し現代アートシーンで活躍する卒業生を招き、本学科ギャラリーにて展覧会を企画しております。第8回目となる今回は、2007年本科修了生、利部志穂の個展を開催致します。

第8回 多摩美術大学彫刻学科企画展
The 8th Tamagawa University Art Department of Sculpture Exhibition



利部志穂 | Shiho Kagabu

1981年神奈川県生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2017年から文化庁在外派遣研修員として2年間イタリア・ミラノに滞在。現在は東京を拠点に制作活動を行う。道端に打ち捨てられた物や都市生活における廃棄物、あるいはホームセンターで購入できる建築資材など、様々なものを解体し、彫刻として組み合わせることで新たな関係性をつくり出す。主な個展会に「DOMANI-明日展 2021」(国立新美術館、東京、2021)、「メド・イン・フチウ 公開制作の20年」(横浜市美術館、東京、2020)、「シンプルルーム—イナミ、ペの祭り」(KAYOKOYUKI、東京、2019)、「愛と風—キラランでホックニー」(Art Center Ongong、東京、2019)、「Dipende」(Tempodel Future Perduto、ミラノ、2018)、「アーティスト・ファイル2013—現代の作家たち」(国立新美術館、東京、2013)など。



多摩美術大学
八王子キャンパス
彫刻棟ギャラリー
TEL 042-379-5622
E-mail: choukoku@tamab.ac.jp
JR東横線「八王子駅」北口より徒歩5分
「多摩美術大学駅」バス停より徒歩2分
または、「JR八王子駅」駅構内から
徒歩3分又は20分。



©Crown キャンドルヤカハル 2019 photo by Shiho Kagabuの写真

利部志穂は、突然私の前に現れた。

それは大学4年生の春で、私たちは彫刻学科の塑造棟で最初のコンタクトをとった。

等身より大きな粘土像、妖魔に背後から寄りかかる男性的の像を作っていたのは知っていた。

挨拶程度はするものの、遠目から彼女を観察しているだけだった私に、彼はダンと近づいてきておもむろに作業着の裾をめくり素足を見せた。

足首には黒いリボンが結ばれていた。私はその美しさにたじろいで、手首を握しながら頼まれたとおり、それを真に収めた。

数年後、ドライブでまた彼女と再会する。

街を徘徊しながら作品に使う「何か」を探す彼女の後ろを歩いた。

彼女が何に惹かれるかを良しとするのか、ただ、その後添付して、何の声で理解する彼女の文法を知ろうとしていた。

異國で拙い通訳をしながら彼女の言葉が私の言葉になり、私の言葉が彼女の言葉になるほどに、彼女と私が双方の様に重っぽいく気がした。

そうやって、きっと彼女は手に取ったあらゆるモノとシンクロしていくのだと思う。ある時間、とてもじゃないエネルギーで、彼女が手に取る「何か」は、彼女の水平、垂直、重力と愛のルールの中に組み込まれた。

彼女は詩を袂に引き摺り下ろし、ゼロの地平から立ち上げ、作る事を始めた。

木平考
ぼくは、空飛ぶ、夢を見る。
ホシが、泪が、流れない。

